

坂ノ途中の自己紹介



野菜提案企業
株式会社
坂ノ途中

2016年9月28日

株式会社坂ノ途中
代表取締役 小野邦彦

イントロ



EC

自社店舗

BtoB



MEIDI-YA



南青山
野菜
基地
Minami-aoyama
Yasai Kichi



新たに農業に挑戦する人たちと連携し、
美味しい野菜を売っています！

事業背景



問題意識のあるところ

日本の全農地



460万ha

毎年、世界でダメになる農地



600万ha



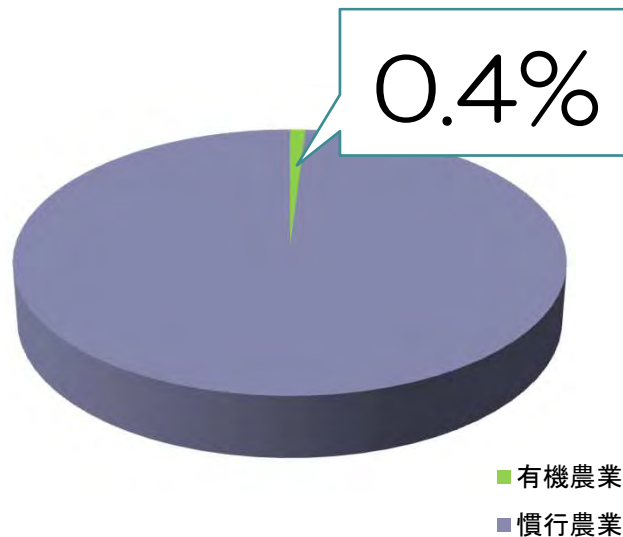
現代の豊かさは、
「未来からの前借り」で成り立っている…

事業背景

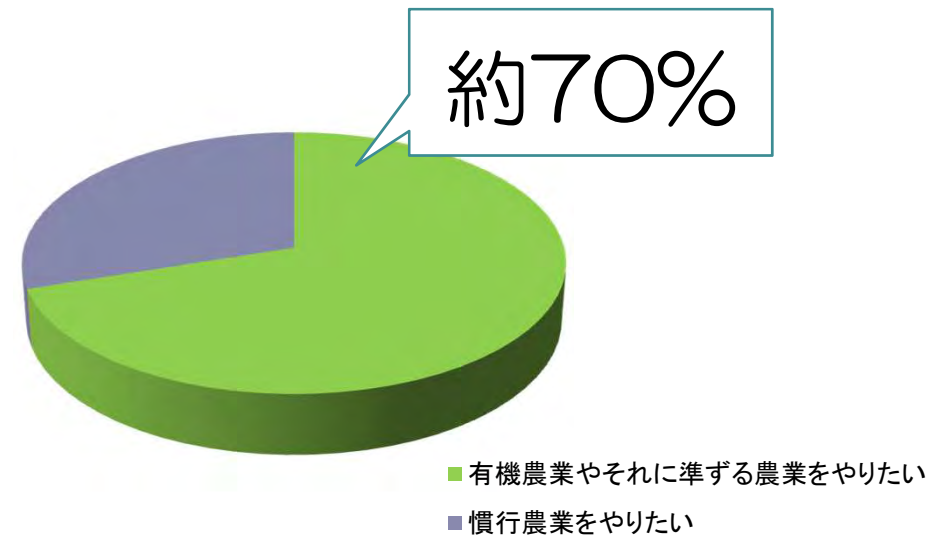


「前借り」をやめるには…

既存農業者



就農希望者



新規就農者を増やすのが最短

事業内容



新規就農者の弱点

◆ 少量不安定すぎて、取引先が見つからない。



栽培計画の全体最適で安定化

「有機野菜って
不安定やからあきら
めてた」



「坂ノ途中さんは、
不思議なくらい安定
してるねえ」



事業内容



新規就農者の長所

- ◆実は「意外なほど」、美味しい
- ◆挑戦意欲旺盛、柔軟な栽培を依頼しやすい



300種類をこえるバリエーションを確保



バリエーションや品質が生きる販売を！

「都会っ子で、
野菜嫌いだった
子どもが」



「毎週、八百屋さん
ごっこをします」



自社農場も



「やまのあいだファーム」



農場出身者が就農する例も、
増えてきました。

ストーリー、あります



農産物って素材。楽しみ方いろいろ。

野菜メディア

コラボ商品開発



丁寧に作られた農産物の背景を、一緒に伝えられるような連携をしています。

メディア掲載

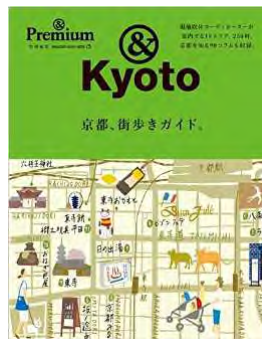


多数！



朝日新聞

日本経済新聞



北欧、暮らしの道具店®

海外でも



ウガンダ オーガニックプロジェクト



「地域内循環」と「地域間連携」が、
持続可能化のキモ

新たな取り組み：Project Mekong (仮)

ラオス北部で農林複合モデル



背景

- ◆ 焼き畑のサイクルが早くなり、植生が回復しない
- ◆ 気候変動／農業資材の流入など、外部要因の変化も大きい
- ◆ もともと山地の暮らしは複合経営型
- ◆ 環境負荷の小さい形で収益機会を創出したい！



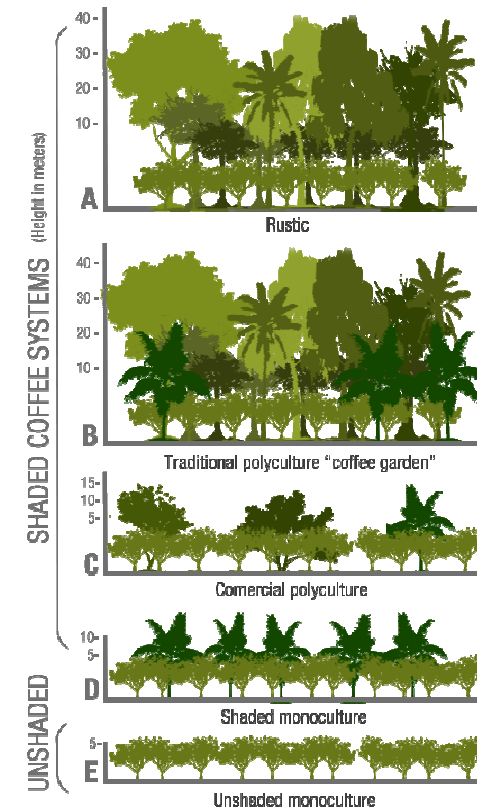
「途上国における適応対策への我が国企業の貢献
可視化に向けた実現可能性調査事業」に採択。

ラオス北部で農林複合モデル



取り組もうとしていること

◆シェードコーヒー



(出典: <http://blog.rootcapital.org>)

◆その他の農産物も組み合わせたい

◆ベトナムでの知見を導入する



コショウ



シナモン

ラオス北部で農林複合モデル



思っていること

- ◆ラオスにやっぱり縁を感じる。僕は縁で仕事します。
- ◆結局、お客さんの声が頼り。伝える努力をすれば、なんだかんだ伝わる。
- ◆農業って国際言語。ラオス山間部の知恵が、日本の過疎地域を救う、かもしれない。

